

February 27 2025 vol.148

いわての看護

Iwate Nursing

いわての
ナースセンタ 81号
だより

合併号 No.20



花巻市 たろし滝



令和6年度 岩手県看護協会 会員数の動向

| 保 | 助 | 看 | 准看 | 計 |
|------------------|------|--------|------|--------|
| 299人 | 307人 | 6,886人 | 113人 | 7,605人 |
| 令和6年度 災害支援ナース登録者 | | | 109人 | |

令和7年2月2日現在

3月11日は「東日本大震災津波を語り継ぐ日」です!
(令和3年2月に条例制定)

教訓を伝承し、絆を大切にして語り継いでいきましょう。



会長あいさつ

公益社団法人岩手県看護協会
会長 相馬 一二三



謹んで新春のごあいさつを申し上げます。昨年中は、会員の皆様にはご支援とご協力をいただき心から感謝申し上げます。今年も変わらぬご支援を賜りますようよろしくお願いいたします。

昨年を振り返りますと、どちらの施設でも人材確保が共通の課題でした。そのような中で看護管理者の方々には処遇改善にもご尽力をいただき、改めて感謝申し上げます。

さて、当協会も昨年は様々な取り組みにチャレンジした年でした。7月には、岩手県訪問看護総合支援センターを設置し、医療機関・潜在看護師による訪問看護ステーションでの体験型研修やOJTの強化を行いました。10月には、4年ぶりにトーサイクラシックホール岩手で参集による「岩手県看護研究学会」を開催し、特にACPのシンポジウムは好評でした。また、12月には、「助産師活躍推進事業」の開始、「自治体保健師の魅力発信イベント」の開催など、社会のニーズに対応してまいりました。

これもひとえに会員の皆様、行政、関係各位のご支援とご協力の賜物と実感しております。

今後は、さらに社会の変化が著しく予測不可能な時代（ブーカの時代）になると言われています。療養の場も多様化し、医療は地域完結型へ移行し、看護は医療と生活の両面から支援が必要となります。在宅療養者のニーズに適時適切に対応できるよう、多職種との連携強化や看護の専門性を発揮できる体制整備を行ってまいりたいと思っております。

今後も会員の皆様と課題解決に向けて共に取り組んでまいりたいと思っておりますので、ご支援の程よろしくお願いいたします。

最後になりましたが、皆様にとってこの1年が実りある年になりますよう祈念申し上げ、ごあいさつとさせていただきます。

岩手県保健福祉部との懇談会

昨年9月9日、内丸の合同庁舎において保健福祉部との懇談会を開催し、3つのテーマで意見交換を行いました。
出席者：保健福祉部 13名・看護協会 14名

テーマ① 2040年に向かう地域社会の変化に対応するための保健師の確保・人材育成・定着支援について

県内自治体において保健師の計画的な採用、人材確保に苦慮している現状と人材育成と定着を一体的に取り組むことの必要性、現行教育体制の充実について認識を共有しました。保健師の分散配置が進む現状を鑑みるとこれまで以上に統括保健師の役割発揮が求められるため、統括保健師の連携強化について県の支援を要望しました。

テーマ② 院内助産の開設推進について

県内の分娩取り扱い医療機関に勤務する助産師320名を対象に実施した「母子のための地域包括ケアに関する実態調査」に基づく課題をもとに、現在「岩手県版 院内助産開設推進ガイドブック（仮）」の作成を進めていることや、岩手県版院内助産開設推進事業の推進により期待される効果について説明しました。県内助産師の声をまとめた実態調査の結果は、県にとっても事業推進のための貴重なデータになりうるとのコメントがありました。

テーマ③-1 訪問看護総合支援センターの進捗状況について

テーマ③-2 看護師等の人材確保の促進に関する事業について

昨年7月16日に開設した「訪問看護総合支援センター」の進捗状況について相馬会長が説明し、今後の役割拡大に向けた構想を伝えました。

また、県内の看護職員数は准看護師を除くと増加傾向にあるものの施設ごとに見ると人材不足が続いている実態があり、人材確保・定着のためには、看護管理者間での連携強化の必要性や看護職養成機関の教員等を交えた関係機関との情報共有の必要性が確認されました。

テーマごとの説明や要望に対し、県としての認識、今後の取組の方向性など担当部署ごとに前向きなコメントをいただき、有意義な懇談となりました。

(副会長 森川 一枝)

令和6年度地域別懇談会を開催して

昨年11月から12月にかけて、10支部を5地域に分けてオンライン（盛岡地域のみハイブリッド）で開催しました。懇談会では、本部より令和6年度事業実施報告並びに下半期活動予定と令和7年度事業予定や研修企画の方向性について説明し、次いで各支部より事業報告がありました。懇談テーマは、昨年7月に開設した岩手県訪問看護総合支援センター（以下、支援センター）の「役割及び活動状況について」でした。支援センター設置までの経緯及び在宅療養者とその方々を支援する訪問看護ステーションの現状と課題、支援センターの目的・機能に沿った取り組みについて説明し、意見交換を行いました。また、地域別懇談会終了後に看護管理者との懇談会も実施しました。地域別懇談会に参加いただいた皆さま、ありがとうございました。

出された意見等の抜粋

- ▶ 病院として退院後の生活を見据えた支援ができるよう、訪問看護ステーションでの体験型研修に参加させたい。
- ▶ 病院看護師がキャリアとして訪問看護師を目指す場合は、病院勤務中に外向等で訪問看護を体験し、所属病院に還元した後に転職するなど双方にとって良い状況となるよう、支援センターを活用できると良い。
- ▶ 医療的ケア児への支援が充実できるような取り組みを検討してほしい。
- ▶ 訪問看護ステーション間のつながりができたり、相談できたりするところがあるのは心強く思う。
- ▶ 変化する看護ケア技術を、訪問看護師も病院実習などを通して習得し、ケアの向上を目指したいと思った。

| 地域（支部）別開催状況 | 開催日 | 出席者数 |
|--------------|-------|------|
| 県北（久慈・二戸） | 11/9 | 48名 |
| 沿岸（釜石・宮古） | 11/16 | 38名 |
| 県南（一関・大船渡） | 11/30 | 44名 |
| 中央（花巻・北上・奥州） | 12/7 | 78名 |
| 盛岡 | 12/14 | 80名 |



盛岡支部との懇談



沿岸地域とのオンライン懇談

（常務理事 富山 香）

令和6年度働き続けられる職場づくり推進事業「WLB推進研修会」報告

| | |
|---------|---|
| 開催日時 | 令和6年10月5日（土） |
| 会場・開催方法 | 岩手県看護研修センター3階研修ホール・ハイブリッド開催 |
| 参加者 | 46名 WLB推進委員 6名 計52名 |
| プログラム | 講演 「頑張る人・優しい人が元気になる～ナースの人事管理～」 講師：社会医療法人明和会医療福祉センター サステナブル本部統括主幹 竹中君夫氏（Web） 職場環境改善報告 「看護職員の処遇改善」 盛岡友愛病院 副看護部長 赤松陽子氏 「看護部業務委員会取り組み報告」 県立中央病院 看護師長 小森仁美氏 |



今年度も「WLB推進ワークショップ」への新規参加施設はなく、昨年に引き続き推進研修会を実施しました。参加者アンケート（回答27名）の結果は、「期待に沿った内容か」の設問に対し、52%が大変満足、48%が満足と回答。「今後の職場環境改善や業務に活かすことができるか」に対しては、大いにできるが37%、できるが59%でした。

次年度は職場環境改善報告会を行います。多くの報告とご参加をお待ちしています。
（ナースセンター事業部 種市 幸子）

令和6年度支部の活動状況

盛岡

盛岡支部長 久保田 桜

盛岡支部では5月の「看護の日」イベントを皮切りに、6月には日本看護協会通常総会に参加、7月には「まちの保健室」と共に一里塚まつりで健康相談を行いました。

研修会は3回実施しており、9月はCO.CORO サポート代表の藤村七美氏を講師に「人材育成」、10月は昨年に引き続き青森大学客員教授 竹林正樹氏の「明日から使えるナツシ理論」、11月は感染管理認定看護師 嶋守一恵氏を講師に「感染対策研修」を開催しました。研修後のアンケートではいずれも高い満足度でした。

組織強化の取組みでは、8か所の施設を訪問しました。また、看護職交流会では「感染対策」について意見交換会を行いました。しかし、現状報告に留まり、あと一歩踏み込んだ交流の場作りが課題と考えています。

今後も看護協会の役割を発信し、会員の皆様の要望にお応えできるよう事業を企画したいと思います。



花巻

花巻支部長 吉田 道子

花巻支部では、6月に国立病院機構花巻病院 公認心理師 心理療法士 阿部敏達氏を講師に「看護職の職場における心理的安全性」についてご講演いただきました。患者さんに物理的、心理的に近い看護師は、負担も大きく心理的安全性を脅かされやすい職種です。参加者から「とても楽しい研修だった」「先生のお話が非常に心に刺さった」と好評でした。市民向けに「看護の日」、花巻病院地域支援センターと合同で「地域住民健康相談」を開催しました。

10月には総合花巻病院 感染管理認定看護師 吉田優氏を講師に「感染管理」について実技を交えた研修会を実施しました。まだまだ続く感染管理を振り返り、現場にどのように活かしていくかを考える機会となりました。

12月に県立遠野病院 皮膚排泄ケア認定看護師 石亀桂子氏を講師に、特別養護老人ホーム東和荘で「褥瘡対策とケア」について出前研修を行いました。

今後も会員の皆様のニーズを捉え、支部事業を進めていきます。



北上

北上支部長 高橋 文子

北上支部では「看護の日」として、5月に「まちの保健室」「看護フォーラム」を開催しました。まちの保健室では一般市民36名から相談を受け、支援につなげることができました。また、看護フォーラムでは現役看護師からアドバイスをいただき、看護師を目指す高校生に伝えることができました。

10月は県立大学看護学部 岡田みずほ氏を講師に「看護情報管理・看護DXの未来と看護」について研修会を開催し、42名が参加しました。看護においてデジタル技術を活用し、記録の効率化や業務負担軽減が期待でき、日々の業務の可視化が大切である事を学びました。また、11月には県立中部病院 感染管理認定看護師 高橋睦氏を講師に「感染対策の基本」について研修会を開催し、28名が参加しました。医療従事者が感染予防策を十分に理解し、実践していく事の大切さを改めて学ぶことができました。

今後も、役員一同、協力して支部事業に取り組んでいきます。



奥州

奥州支部長 菅原 宏則

今年度は新型コロナウイルスの5類移行に伴い、奥州支部活動計画について、役員及び会員各位のおかげで実施することができました。

支部主催の研修会では、県立胆沢病院 摂食嚥下障害看護認定看護師 菅原真貴子氏から食べることの重要性や看護師も知識・技術を習得することの必要性について学ぶことができました。

感染管理研修会は、県立胆沢病院感染管理認定看護師 吉田裕子氏を講師とし開催しました。感染リンクナースの育成も兼ねていることと、クラスター等を経験した施設も多いためか、参加者も真剣に講義を聞いていました。今後、新型コロナ、インフルエンザ等の感染拡大が懸念されるなか、日頃の感染対策がいかに重要であるかを再認識することができました。

地域活動では、限られた地域ではありましたが、地域サロンに訪問させていただき食事指導や健康相談などの活動を行い、地域住民と顔の見える関係を作る事ができ、有意義な時間となりました。

今後もこうした計画をより掘り下げ、活発に活動していきたいと思っています。

一関

一関支部長 菅原 洋子

一関支部では「看護の日」のイベントとして、4月に「一関春まつり」に参加し、医療相談や血圧測定、看護の仕事について紹介しました。とても暑い日でしたので、水分補給の大切さや必要とされる飲水量の目安や介護の相談など、多くの方々と話す良い機会となりました。

9月には一関市恒例の国際ハーフマラソンが開催され、支部役員4名が救護班として参加しました。全国各地から参加される中、救急搬送されるような参加者もなく、無事に任務を終了することができました。10月には感染症対策研修として県立千厩病院 感染管理認定看護師の石川泰洋氏を講師に迎え、26名の参加がありました。手洗いのタイミング等基本的な予防策についてご講義いただき、平時からの感染対策の大切さを改めて再認識しました。

今後も役員一同、協力しながら活発に支部事業を進めてまいりますので、皆様のご協力をよろしくお願い致します。



大船渡

大船渡支部長 高橋 美保

5月に地域住民の健康相談活動として陸前高田市で「ふれあい健康相談」を開催し、血圧測定、骨密度測定等を行い、約40名の参加がありました。11月には住田町産業まつりに参加し、血圧・血流・骨密度測定を行い、60名を超える地域住民に参加していただきました。

支部研修会は、臨床心理士の千葉崇弘氏を講師に「理解しがたい」を「まあちょっとは分かるかな」くらいに変えるヒント集」をテーマに、自分とは違う他人を理解し付き合うための心もちを学びました。また、県立大船渡病院 感染管理認定看護師 水野香里氏による「医療・介護施設における感染対策」を開催し、受講者から「日々の実践に活かせる」との感想がありました。11月には住田町内高齢者施設への出前研修として、県立大船渡病院 救急看護認定看護師 桑久保洋子氏を講師に「高齢者の状態変化への気づきと対応」を開催し、受講者から好評を得ました。

今後も、地域に求められる事業・研修企画に取り組んでまいります。



釜石

釜石支部長 藤原 美幸

釜石支部では、5月に「看護の日」イベントを開催しました。血圧測定・手洗いチェック・体脂肪測定・看護の日グッズの配布等を行い、市民130名の参加がありました。ここ数年は、感染対策のため接触することを避けた対応でしたが、徐々に会話を交わし和やかな雰囲気の中で実施することができました。

支部研修は9月に「感染対策」、12月には「医療安全のコミュニケーションスキル」について実施し、日々の業務にすぐに活かせる知識・スキルを学ぶことができました。

高齢者施設への出前研修は10月に特別養護老人ホームへ訪問し、「口から食べるを支援する」をテーマに摂食嚥下について行いました。21名の施設職員が参加し、終了後のアンケートでは、今までにない気づきがあったなど、大変好評でした。

今後も支部の会員皆様のご意見・ご希望に添えるよう、研修を企画していきたいと思っております。



宮古

宮古支部長 三河 良子

宮古支部では5月に「看護の日」イベントをマリナーコートにて開催しました。血圧・体組成測定、健康相談、お子様ナース服試着等を実施し、60名が来場しました。「ナース服が着れて良かった。来年も実施してほしい。」と好評でした。

3回の研修会の内、2回は済生会岩泉病院の認定看護師に講師をお願いしました。6月は皮膚・排泄ケア認定看護師 祝田美子氏を講師に「褥瘡対策について」を開催し30名が参加、10月は感染管理認定看護師 鈴木幸子氏より「感染対策」について講義いただき21名が参加しました。12月は高齢者施設への出前研修として、介護老人保健施設ふれんどリー岩泉を訪問し、「呼吸器症状のある方のケアのポイント」について Manacare Nursing office の慢性呼吸器疾患看護認定看護師 齊藤美香氏に講義いただきました。28名が参加し、「日常ケアの観察を心がけようと思った」「出産後、研修会に参加できていなかったのが、参加できてよかった」等の感想をいただきました。



久慈

久慈支部長 山田 由美子

久慈支部では5月に「看護の日」イベントとして「まちの保健室」を開催し、健康相談や血流・骨強度測定等を行いました。また、ケアサポート・ホソタ様からご協力いただき、災害時に役立つ介助用具の展示も行いました。

研修会は、9月に県立久慈病院 認知症看護特定認定看護師 加藤愛美氏を講師に「パーソン・センタード・ケア～その人を中心としたケア～」をテーマに24名が参加しました。現場に即役立つ心にしみる研修で、明日から実践したい等の感想がありました。10月は「施設内における感染対策」として県立久慈病院 感染管理認定看護師 佐京里美氏よりご講演いただきました。実技もあり、正しい知識を身につける実践的な研修でした。

10月には介護老人保健施設ユートピア白滝において前述の加藤愛美氏を講師に「認知症の方の世界に立ってBPSDを考える」をテーマに出前研修を行いました。施設職員43名が参加し、研修後の質疑応答では日頃の業務上の問題点について確認する機会となり好評でした。

今後も地域の皆様の要望にお応えできるよう支部事業に役員一同協力して取り組みます。



二戸

二戸支部長 外館 善裕

6月に県立二戸病院 精神科認定看護師 佐藤宣子氏から「コミュニケーション・心のケア」と題して講義をいただきました。岩手県は全国でも自殺死亡率が高く、中でも二戸圏域が高いことから、地域の現状を知り、心のケアについて学び、支援をどのようにすべきか考える機会となりました。10月には、県立二戸病院 感染管理認定看護師である私が「感染管理におけるファシリティー・マネジメント」と題し「設備の視点」から感染対策をどう考えるべきか講義しました。また、地域住民の健康活動として「このへ健康フェスティバル」に参加し、多くの市民の方と血圧測定・健康相談・手洗い体験を通じふれあうことができました。12月には高齢者施設への出前研修として、県立二戸病院の言語聴覚士 荒田香奈子氏と作業療法士 向川公司氏による「摂食嚥下障害／誤嚥性肺炎予防」を企画し、6施設が参加しました。

今後も支部役員一同、協力し頑張りたいと思います。



令和6年度 リスクマネージャー交流会を開催して

11月8日に“医療・看護安全対策について情報を学び、医療安全管理者としての役割を再認識し、今後の活動に役立てる”を目的にリスクマネージャー交流会を開催しました。会員・非会員合わせて46名が参加し、「患者・家族からの苦情、暴言への組織的対応」と題して、学校法人岩手医科大学 総合保安対策室 室長 小野寺憲一氏よりご講演をいただき、その後、グループワークを行いました。

講義内容は、①苦情・クレームとは何か ②申し立て内容の調査 ③医療の実態と患者側の認識のズレ ④メディエーション ⑤診療拒否の対応 ⑥警察、弁護士等との連携について、多くの事例をもとにお話いただきました。患者の暴言・クレームには一人に対応せず、マニュアルの整備や関与する部署等を定め、組織として対応することの重要性を学ぶことができました。

講義後のグループワークでは、各施設の現状について意見交換を行い、多くの施設で看護師がほぼ対応を行っている現状でした。今回の講義を受けリスクマネージャーとして、暴言・クレームに対するマニュアルの整備と院内周知、組織的対応フローの作成、ポスターでの患者啓発等、役割り遂行に必要な知識を深めることができました。

次年度の開催に向け、皆様からいただいたご意見を踏まえ安全行動につながる研修会を企画していきたいと思っております。開催にご協力いただいた皆様に感謝申し上げます。

(医療・看護安全対策委員長 浅尾 洋子)



(公社) 岩手県看護協会事業

「自治体保健師の魅力発信」イベントを開催しました！

日 時 令和6年12月21日(土) 13:30～15:30 マリオス18階

●自治体ブース：大船渡市、北上市、一関市、岩泉町、田野畑村、普代村

●何でも相談ブース：県保健福祉部保健師と矢巾町保健師



イベント前半は、“自治体保健師になろう！”をテーマに矢巾町保健師の山田芽生氏から、苦労ややりがいを含めリアルなお話がありました。続けて、県庁保健師の湊香奈子氏から“保健師への道”として保健師の状況や就学資金貸付制度等について、わかりやすく説明いただきました。

後半は、参加者19名(看護学生17名、他2名)が自治体ブースと何でも相談ブースを訪問しました。自治体ブースでは、メモを取りながら熱心に聞く学生もおり、保健師だけでなく採用担当の事務の方も説明したり、何でも相談ブースでは具体的な質問等に熱心に対応していました。

終始、会場全体が活気に満ち、賑やかなイベントとなりました。最後に参加者全員が車座になり、2名の看護学生の方々に感想を話してもらい大きな拍手に包まれ、盛会裏にイベントを終了しました。

会場の準備・後片付け、受付、参加者誘導等は、当協会の副会長・保健師職能委員の全面協力によりオール岩手で取り組みました。

自治体保健師に興味をもっていただき、地域を支える保健師を目指すきっかけとなれば幸いです！

ノベルティグッズ
(あったかい膝掛)

各相談ブースの様子

大船渡市



北上市



一関市



岩泉町



田野畑村



普代村



何でも相談ブース

山田さん(左)と湊さん(右)が対応！



「自治体ブース」「何でも相談ブース」では、熱のこもった説明に対し、参加者から積極的な質問が出ていたよ～！



参加した学生さんから、前向きな感想をいただきました！

「アウトオブキッズニア in 滝沢」に参加して

令和6年12月14日（土）・15日（日）の両日、滝沢市ビッグルームで「アウトオブキッズニア in 滝沢」が開催されました。

このイベントの目的は、“子ども達がリアルな職業体験をすることで、仕事や社会について「気づく機会」となり、仕事への興味・関心が広がる”ことです。主催である滝沢市が求めたのは、子どもを「大人」として接し言葉使いに注意する・働く場のリアリティさを演出する・仕事のやりがいに気づいてもらう等であり、看護現場の臨場感を出す工夫や声かけの練習をして臨みました。

岩手県ナースセンターでは、看護師の仕事は人の命を守り健康に深く関わり配慮と思いやりが大切だということ、観察は気づきや判断が大事であることなどを知ってもらうために、次の内容を実施しました。

- ① 子ども達が白衣に着替えて「看護師」に変身
- ② 紙芝居で、看護師の仕事の概要と本日の看護体験の内容を説明
- ③ 熱のある患者の観察、血圧・体温・脈拍・SpO₂測定、呼吸音聴取
- ④ 赤ちゃんのお世話（オムツ交換・着替え・ミルクを飲ませる）

※③④は2人ずつ15分交代で実施

参加者は全員小学生で、8枠4人ずつ計32名が参加し、満員御礼でした。

アンケートでは、94%が「大変満足」と回答し、看護師は「人の役に立てる」「優しい」「命を守る仕事」「大変そう」「やりがいがある」等の感想があり、楽しそうに体験していたのが印象的でした。

＼ 集まれ！みらいの看護師さん /
～ どんなお仕事をするのかな？ ～



紙芝居抜粋



ブースの様子、かんごちゃんも参加したよ



患者の観察、声をかけながら測ってみよう



赤ちゃんのお世話、上手に抱っこできたね

(ナースセンター事業部 柳田 美喜子)

ヘルシーワークプレイス!!

—健康で働き続けられるために—

シリーズ No.6

今回は更年期について紹介します。

働き続けられる環境づくり推進委員会



更年期と共に過ごす

最近、「更年期・更年期障害」についてテレビや雑誌で見かけることが多々あり、インターネット検索すると相当量の情報がヒットします。このように情報が溢れている時代なので、あえて我が身が更年期と共に過ごした日々と少々医学的知見をお伝えします。更年期は45歳から55歳の時期で、誰もが通過し、男女差はありません。更年期と聞くと負のイメージを抱くかもしれませんが、特殊な又は厄介な時期と想像せず、多様性（ダイバーシティ）の視点から捉えてはいかがでしょうか。ちなみに、更年期症状と更年期障害は異なります。症状が増悪し生活に障害をきたした場合（内科や精神科疾患を否定した後に女性ヘルスケア外来に相談する状態）を更年期障害と言います。

若い頃の私は「シミ？たるみって？化粧品はなんでもいいじゃない」と自信たっぷりでした。しかし、生物の性です。更年期後半になると卵巣で産生されるエストロゲンは25~0.5pg/mLまで低下し、欠落状態になります。ただしエストロゲンは脂肪からも産生されるのでゼロになることはありません。エストロゲンはコラーゲン合成を促進し皮脂分泌を制御するため、程よく潤い張りのある肌を保つことができます。エストロゲンが欠落した私はどうかと聞かれると、「シミがあり、張りはない。たまに高めの化粧水で肌の水分を補う。顔用の優しい香りのオイルでマッサージする」と医師らしくない回答でした。よく耳にするホルモン補充療法は骨量の維持、脂質代謝異常を防ぐ、血管内皮機能を修復し高血圧や動脈硬化を改善もしくは悪化しないこと、アルツハイマー病発症のリスク低下に期待できます。残念ながら皮膚組織に対し改善効果を示すエビデンスは不十分です。お肌に関しては皆さん自身の工夫が必要です。

次に勤務中に困るのが、ホットフラッシュです。急に「暑くない？汗が出るわー」と言うと、同僚か

ら「暑くないよ」と言われがちです。その時は寒いよりましと思いき（夏はキツイです）、お気に入りのタオルハンカチで汗を拭きましょう。タオルハンカチにレモンガラスなどのオイルを数滴垂らしておくと清涼感を味わうことができます。オイルを使用する際は患者さんと周囲に配慮しましょう。ホットフラッシュも工夫で乗り切れます。

重視することは、更年期とともに発症する高血圧です。エストロゲン欠落による血管内皮細胞の障害、血管トーンや血管構造の破綻が関与しています。高血圧は自己判断や工夫ではなく受診を勧めます。最後に嫌だなあと思うことは、イライラによる八つ当たりで、私自身も悩まされました。周囲の方々が優しいので助かったと思います。更年期に不安感や無気力を自覚した時は、友人などに気持ちを話すことが良いと思います。ヘルスケア外来で患者さんの話を傾聴した後、患者さんから「スッキリした」と言って下さることがあります。やはり「話す」ことは重要だと思います。誰もが経験する更年期を、年齢や価値観を分かち合うダイバーシティの気持ちで共に過ごしてみてもどうでしょうか。ただし、高血圧、脂質異常や糖尿病を放置しないようお願いいたします。



(岩手医科大学医学部 産婦人科学講座 小山 理恵)

令和6年度「セカンドキャリアセミナー」

～あなたのやりがいを求めて、納得の働き方を探しましょう～

- ① 11月 8日（金） ホテルメトロポリタン盛岡本館 参加者 10名
- ② 11月 15日（金） ホテル松の薫一閣 参加者 4名



今年度は、協会長に「看護の動向」、社労士には毎年好評の「年金制度」について、ナースセンター事業部長には「ナースセンターの賢い利用法」を、訪問看護総合支援センター長には「訪問看護編」として、雇用側から見てどのような人材を求めているかに視点を置き、求職者の希望を取り入れて臨機応変に雇用している事例を紹介いただきました。

意見交換では、質問しやすい雰囲気に配慮し、会場をフリースペースとして、それぞれが講師に質問し、皆で膝を交えて話し合う機会としました。

アンケートでは、9割が「参考になった・大変参考になった」と回答しました。「自分の今後の働き方について考える機会となった」「色々な働き方が事例として紹介されたので参考にしたい」「話しやすい雰囲気が良かった」「年金制度は難しかったが参考になった」「ナースセンターの事業内容が分かった」など好評を得ました。一方で「内容と時間配分が少し残念に思った」「同じような立場にある参加者同士の意見交換がなかった」という意見もあり、今後の企画の参考にしたいと思います。

（ナースセンター事業部 柳田 美喜子）



真剣に講義を聴く参加者



講師を交えて意見交換

働き続けられる環境づくり推進委員会主催セミナーを開催しました

令和6年12月21日に県立中央病院副院長 大浦裕之氏を講師に「看護師が覚えておきたい怒りの感情コントロールスキル」と題したセミナーをオンラインで開催し、18施設から34名の参加がありました。

大浦氏はアンガーマネジメントファシリテーターの資格を有しており、その知見とこれまでの経験を交えながら、『怒り』の感情について、仕事やプライベートでも役立つ知識や対処方法をご講義いただきました。



- ① 医療現場では、業務内容やミスが許されない職場風土や対人関係によるストレスが大きい等の理由から、『怒り』の感情が湧きやすい環境にある。さらに『怒り』は、職場の雰囲気を悪くするばかりか作業効率の低下やヒューマンエラーの誘発につながってしまうため、上手にコントロールする必要がある。
- ② 『怒り』の正体は、脳科学的に人間に元来から備わっている感情であり、共同生活を快適に送るために適切にコントロールする必要がある。
- ③ 『怒り』の感情コントロールの方法として「衝動、思考、行動」が代表的である。
- ④ パワーハラスメントは、被害者の精神的ストレスからエラーを誘発することがあり、患者の安全に重大な影響を及ぼす危険行為となるため、組織的な対応が必要である。



今回のセミナーでは、『怒り』について深く学ぶ機会となりました。特に印象的だったのは、テーマでもある「怒りの感情コントロールスキル」の究極は、“感謝の習慣”と“ウェルビーイング”とのことです。お互いに感謝の気持ちを持つことが大切だと納得させられました。

（働き続けられる環境づくり推進委員会 高橋 裕季子）

令和6年度 災害支援ナース養成研修

災害支援ナースは、令和6年4月の感染症法・医療法改正に伴い、その仕組みが変わりました。これまでは「自然災害」のみの対応でしたが、4月からは「自然災害と新興感染症等」が派遣対象になりました。それに伴い、災害支援ナースになるための要件も変更となり、昨年度から20時間のオンデマンド研修と2日間の集合研修（災害・感染症の演習）の受講が必要となりました。

新しい災害支援ナース養成研修がはじまって2年目の今年は、32名の方が受講し、11月25・26日の2日間、岩手医科大学災害時地域医療支援教育センターで演習を行いました。1日目は、岩手医科大学救急・災害医学講座教授 眞瀬智彦医師と、当協会の防災・災害看護委員の方々が講師となり、災害時の状況設定にどのように対応するかグループワークを行いました。2日目は感染症対応の演習です。講師は岩手医科大学附属病院の感染やクリティカルケアの認定看護師の方々に、午前はゾーニング・多職種連携・家族ケア等の机上演習、午後はPPE着脱・重症者の吸引等のケア・訪問看護における対応等の実技演習と、充実した内容でした。

受講者からは、「研修受講後、災害派遣に参加したいという気持ちがより強くなった」「東日本大震災の際はまだ中学生で救護班の方達に力をもらった。その時のことが忘れられなくて今回、応募したが、とても楽しく学びが深い2日間だった」「講師が災害支援に行ったときの状況話を話してくれて、実際の活動がイメージできた」等の感想がありました。

岩手県では未だ災害支援ナースの派遣実績はありませんが、派遣元である県と連携し、スムーズな支援ができるよう体制を構築していきます。

次年度以降も本研修に多くの看護職が受講いただくよう、ご協力をお願いします。



イチ、ニ…皆で肺区域体操



災害対応のグループワーク



閉鎖式気管吸引を体験



在宅での口腔ケア演習



重症者のケア

(常務理事 目時のり)

特定認定看護師紹介

緩和ケア認定看護師の活動状況

岩手県立中央病院
緩和ケア認定看護師 小笠原 章子



緩和ケア病棟勤務時に、患者の最期の場面に立ち会うことが多くありました。その家族の中には「良い時間を過ごせた」と話しつつも、「こうしてあげたかった」「もっと何かできたのではないかなど」と後悔している家族が多いと感じていました。家族の後悔を少なくするには、どのようにすればよいかと日々悩む中で、患者がその人らしく過ごせるよう苦痛を緩和したいと思い、緩和ケア認定看護師となりました。来年2回目の更新を控えています。

現在、放射線部門に勤務しており、緩和ケアチームの一員として、患者・家族への病状・治療の説明



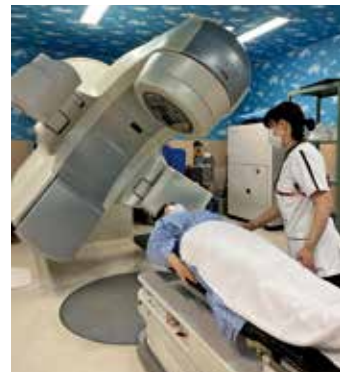
や療養の場の選択などに関わり、症状コントロール、苦痛緩和への対応、療養の支援などを行っています。

患者は身体的な苦痛以外にも、多くの苦痛を抱えています。仕事を続け

ながらのがん治療や長時間かけての通院、経済的な心配事を抱えていたり、家族の支援が受けにくい環境など、その背景は様々です。また、患者・家族の言葉には表出されていない思いが隠されていることもあります。全人的にアセスメントし、患者・家族の思いを尊重した上で対処することにより、抱える苦痛を少しでも緩和し療養できるよう多職種で協働して支援しています。

今年度は、地域の病院訪問や研修会講師の依頼があり、地域の医療従事者とお話しができ、大きな学びを得ることができました。

私の役割は、「患者・家族の苦痛を緩和し、その人らしく過ごせるようお手伝いすること」だと思っています。日々の関わりを大切に、患者・家族の希望に沿えるよう療養場所に関わらず、患者・家族を支援したいと思いますので、よろしくお祈いします。



活用していますか？リソースナース登録・活用システム

当協会では、令和5年10月より県内のリソースナース（専門看護師・認定看護師・特定行為研修修了者・認定看護管理者・アドバンス助産師）を登録し、自施設だけでなく地域の看護の質向上に貢献するためのネットワークづくりを行っています。1年経過した令和6年10月に、登録者の活動状況調査を行いました。（対象者113名中回答78名 回答率69%）

本システムを通して、他施設から支援依頼があった登録者は9名で、依頼内容は全て研修会講師でした。今年度は訪問看護総合支援センターが開設され、在宅や各施設内のチーム活動においても、リソースナースの知識や技術がさらに活かされることが期待されます。11月末日までに登録いただいているリソースナースは113名（実人数）です。未登録の方は、是非ご登録いただくよう改めてお願いします。

図1. 本システムを通じた支援依頼

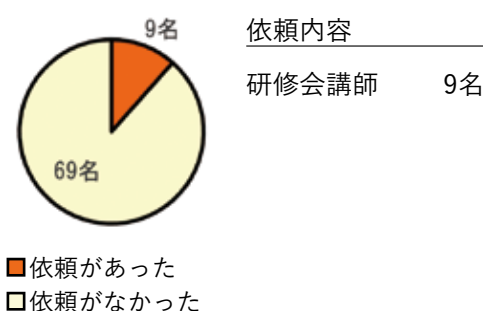
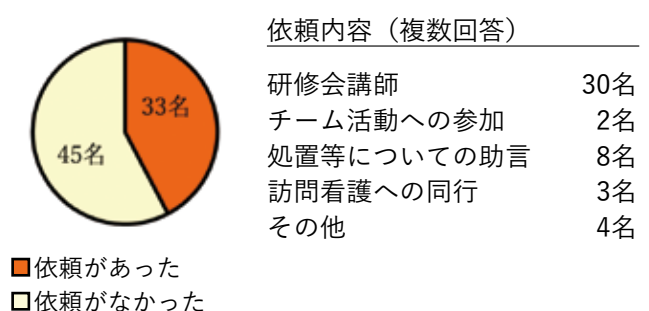


図2. 本システム以外のルートによる支援依頼



（常務理事 目時のり）

いわての ナースセンター 81号 だより

岩手県ナースセンターはあなたを応援!!



岩手県ナースセンターは、ライフスタイルに合った働き方を一緒に考え あなたのキャリアを支援します

無料職業紹介による看護職の確保に加え、無料就業相談による離職防止や潜在化予防・職場定着の促進に取り組んでいます。

【岩手県ナースセンター 登録数・相談件数・就業者数推移】

令和2年4月～令和5年3月31日



求職登録者数・求人数・就業者数は、令和3年度をピークに減少しています。

相談件数も同様に減少傾向ですが、求職相談は求人相談よりも多い状況です。

就業に関するご相談は、予約なしで対応していますので、お気軽にナースセンターまでご連絡ください。



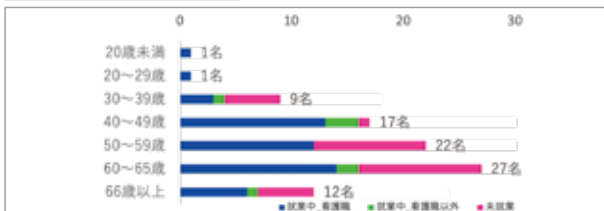
令和6年度 求職登録者の状況調査結果

目的：求職登録者の実態を把握し再就業支援を行う。

調査対象者：e ナースセンターに登録して求職活動をしている看護職員 230 名

回答率：39% (89 名)

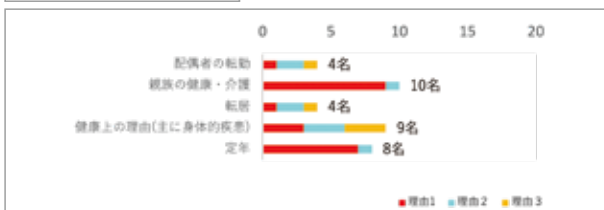
求職登録年齢



希望勤務形態



離職理由



希望就業条件

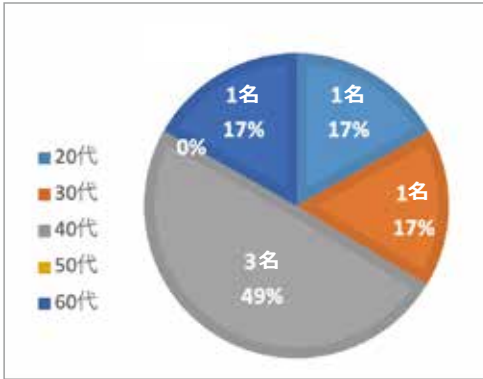


回答者の年齢は、60歳以上が多く39名(43%)でした。離職理由は、家族介護・健康上の理由・定年の順でした。ナースセンターは、これからも働き続けたい看護職員と求人施設とのかけ橋になっていきます。

看護の現場に戻ることに不安を感じている看護職への研修会開催報告

●看護職員再就業支援研修会

令和6年7月8日～12日（講義・演習3日間、施設研修2日間）に開催し、受講者数は6名でした。



受講者の年代



演習の様子



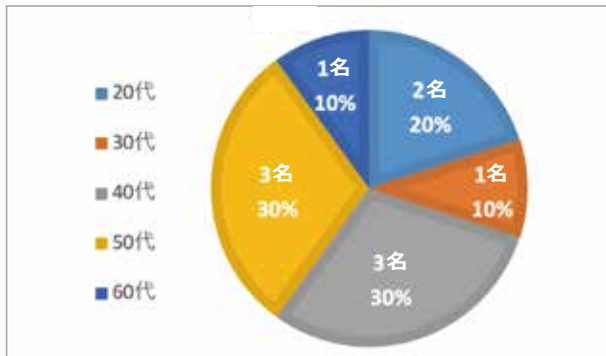
相談会の様子

【受講者の声】

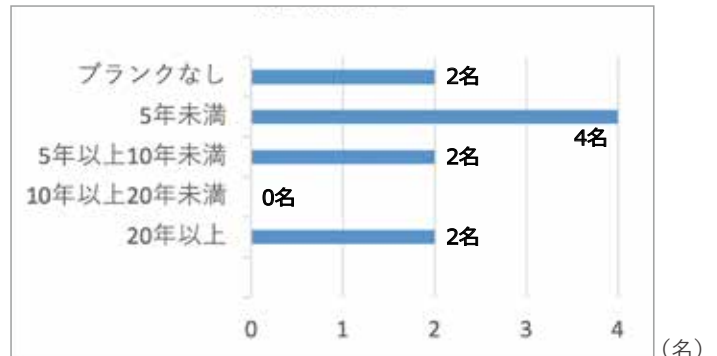
- ◇ 忘れていたことも多かったが、講義で新しい知識を学ぶことができて楽しかった。
- ◇ 無料なのに講義や実習の内容が濃く、とても有意義で貴重な体験ができた。
- ◇ 心配だった点滴や注射の手技を実際に経験することができ、少し自信がもてた。

●看護職員復職研修（岩手県委託事業）

令和6年9月18・19日（盛岡市）、令和6年10月17・18日（北上市）に開催し、受講者は合わせて10名でした。



受講者の年代



受講者の離職期間

(名)

【受講者の声】

- ◇ 最近の医療・看護の状況を知ることができた。
- ◇ 知識の再確認ができ、技術が学べて良かった。
- ◇ 復職について漠然とした不安が解消され、新たな挑戦に背中を押してもらった。



かんごちゃん



演習の様子

「看護補助者の無料職業紹介」

昨年10月からハローワークと連携し看護補助者の無料職業紹介を開始しました。
「看護チームの一員で仕事したい」「資格・経験は無いが働きたい」と仕事を探している方、また、看護補助者を募集したいと考えている施設担当者の方は、当センターにお問い合わせ下さい。
※ナースセンターで取り扱う求人は、**看護師の指示のもと看護補助業務を行なう事を前提**にしています。

「看護補助者としての就業にむけた研修会」 集合研修開催、オンデマンド研修配信中!!

●集合研修：会場 ハローワーク盛岡

【第1回】令和6年11月25日に開催し、参加者5名でした。

【第2回】令和7年1月24日に開催し、参加者13名でした。

【受講者の声】

- ◇ 看護補助者の方の話を聞く事で、業務内容を想像できて良かった。
- ◇ 良い事ばかりでなく、大変な事も理解できた。
- ◇ 病院によってやり方、内容が違う事を学べて良かった。

●オンデマンド研修を配信中です。無料で受講できます。

受講希望者は、ナースセンターまでご連絡ください。

申込期間：令和7年3月7日 17:00まで

配信期間：令和7年3月31日 15:00まで



看護職のための
ポータルサイト NuPS

2025年の秋まで待ってね!

NuPS
とは

デジタル改革関連法に基づいた、看護職のポータルサイトです。
自分のキャリア情報を一元的に管理・活用できるようになります。
都道府県ナースセンターへの相談がサイト上で、できるようになります。



離職時には、まず届出を! 看護師等免許保持者の届出制度(とどけるん)

登録者数 78人(本人:21人、代行登録:56人、施設登録:1人) 令和6年4月1日~令和6年12月31日



※届出は

- ① オンラインでの登録
とどけるん ▶▶▶
(看護師等の届出制度)

- ② 届出用紙での登録

▶ ナースセンターに届け出用紙を提出



とどけるん
オンライン登録は
こちらから

施設の方は、退職される看護職員に、引き続き届出制度のご案内をお願いします。

公益社団法人岩手県看護協会 岩手県ナースセンター

〒020-0117 岩手県盛岡市緑が丘2丁目4番55号 TEL:019-663-5206 e-mail:iwate@nurse-center.net

INFORMATION

看護協会入会のご案内 令和7年度入会受付中！

※会員有効期間は、令和7年4月1日～令和8年3月31日までの1年間です。

継続・再加入

| | |
|-------------|----------------|
| ■日本看護協会年会費 | 5,000円 |
| ■岩手県看護協会年会費 | 10,000円 |
| 合計 | 15,000円 |

新規加入

| | |
|-------------|----------------|
| ■日本看護協会年会費 | 5,000円 |
| ■岩手県看護協会年会費 | 10,000円 |
| ■岩手県看護協会入会金 | 20,000円 |
| | (初回のみ) |
| 合計 | 35,000円 |

【問合せ】

公益社団法人岩手県看護協会 事務局
☎ 019-662-8213 まで

“今すぐ入会！”はこちらから→
【WEB入会】をご利用ください。



●令和7年度新規入会・再入会していただいた方へお知らせ

令和7年4月1日から会員専用WEBページ「キャリアース」が利用できます。
会員情報の確認・変更、電子会員証の表示のほか文献検索や各種資料など看護業務に役立つ魅力的なコンテンツがご覧いただけますのでぜひご活用ください。
プラスチック製の会員証は、勤務先の会員代表者あてに3月下旬から順次発送予定です。



未加入の方への入会のお誘いを
お願いします

教育部から

1. 看護実習指導者講習会（特定分野含む）の申し込み方法が変わります！

これまでは、看護職員養成校が受講者を推薦するという形で申し込みをしていただいておりましたが、医療施設等からの直接申し込みに変更いたします。4月初旬に開催要項をホームページ及びマナブルに掲載しますので、ご確認下さい。

2. 令和7年度認定看護管理者教育課程について

ファーストレベルとセカンドレベルを開講いたします。

申し込み期間は下記の通りです。多くの方の申し込みをお待ちしております。

■セカンドレベル 令和7年4月3日（木）～4月10日（木）

■ファーストレベル 令和7年5月15日（木）～5月22日（木）

令和7年度岩手県看護協会職能合同集会

「頼るスキル、頼られるスキルの磨き方」(仮)

講師に【神奈川県立保健福祉大学 大学院ヘルスイノベーション研究科 教授 吉田穂波氏】をお迎えし、
受援力を発揮する「考え方」と「伝え方」のコツについてご講演いただきます。

期 日：令和7年9月6日（土）13：00～14：50

会 場：岩手県看護研修センター 3階研修ホール
〔ハイブリッド開催〕

対 象：岩手県内の看護職／看護協会会員・非会員
学生（学生はオンライン参加のみ・無料）

※非会員の方は、受講料1,000円をいただきます。

お話を聞くだけで、
心が癒されますよ～！
7月初め頃に「マナブル」から
お申し込み下さい。



編集後記

2025年はじめの「いわでの看護」発行となりました。新型コロナウイルス感染症は未だに落ち着きを見せず、加えてインフルエンザも猛威を振っており、皆様は多忙な日々をお過ごしのことと思います。体調を崩されませんようにご留意ください。是非、“ヘルシーワークプレイス!!—健康で働き続けられるために—”を参考にしてみてください。